

野菜畑作生産情報 第7号 (要約版)

平成30年10月18日
青森県「攻めの農林水産業」推進本部

- ◎大豆は、適期収穫で良品生産に努めましょう！
- ◎小麦は、ほ場の排水対策と雪腐病防除を徹底しましょう！
- ◎ながいもは、適期収穫で良品生産に努めましょう！

○大豆

- 1 成熟期は、平年よりも早まっており、おおむね収穫適期に達している。
- 2 収穫適期は、茎水分50%以下、子実水分20%以下となった時期である。収穫が遅れると、被害粒が増加して収量や品質が低下するので、収穫適期に達したほ場では計画的に収穫する。

○小麦

- 1 は種後の生育は、おおむね良好である。
- 2 明きよの設置など排水対策を徹底して湿害を防止する。
- 3 雪腐病を防除するため、11月中旬から下旬に薬剤散布を行う。

○ながいも

- 1 生育は、平年を上回っている。
- 2 収穫は、茎葉が完全に黄変し、試し掘りでアクが発生しないことを確認してから開始する。
- 3 雨天など過湿なほ場条件での掘取作業は、貯蔵中の腐敗を招くので行わない。
- 4 茎葉の絡んだ「ながいもネット」は、堆肥化等により減量し、ネットと茎葉を分別した上で適正に処理する。

○秋冬だいこん

- 1 生育は、順調である。
- 2 収穫はほ場毎に試し掘りで肥大状況を確認してから行う。

○冬期間のハウス栽培

- 1 降雪、強風等に備えて、ビニールやマイカ線などの点検・補修を行う。
- 2 ハウス内の温度は、循環ファン等を設置して温度ムラを減らすとともに、時間帯に応じた細やかな温度管理ができる変温装置を活用したり、暖房機の温度を生育適温の下限に設定するなど適正な温度管理に努める。

◎ほ場を見回るなど農作物の盗難防止に努めましょう。

◎日本一健康な土づくり強化月間（9月～11月）

安全・安心な農産物を安定して生産するためには、土づくりが重要です。堆肥の施用や土壌診断などにより、健康な土づくりに取り組みましょう。

◎秋の農作業安全運動展開中！（8月15日～10月31日）

- 1 慣れた作業でも油断せず、注意して行いましょう。
- 2 必ず、作業の合間に十分な休憩を取りましょう。
- 3 自分を過信しすぎず、無理のない作業を行いましょう。
- 4 一人での作業は避け、やむを得ず一人で作業を行う場合は、家族に作業場所を伝え、携帯電話を持ちましょう。
- 5 家族や周りの人など、地域全体で注意を呼び掛けましょう。

◎農薬の使用に当たって、

農薬は適正に使用しましょう。

農薬の飛散を防止しましょう。

農薬は使い切り、河川等へ絶対捨てないようにしましょう。

クロルピクリン剤など土壌くん蒸剤を使用する際は、必ずポリエチレンフィルム等（厚さ0.03mm以上または難透過性の資材）で被覆してください。

農薬を使用する場合には、必ず最新の農薬登録内容を確認してください。

農薬情報(http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_info/)

農薬登録情報提供システム

【詳細検索】(<http://www.acis.famic.go.jp/search/vtllp301.jsp>)

【作物名検索】(<http://www.acis.famic.go.jp/search/vtllp101.jsp>)

◎農業保険（農業共済及び収入保険）への加入について～

1 農業共済

「農業共済」は、自然災害等により農作物・家畜・園芸施設に損害が生じた場合に共済金が支払われる制度です。

2 農業経営収入保険

平成31年から新たに始まる「農業経営収入保険」は、農業者が自ら生産した農産物の販売収入全体を対象とし、自然災害に加え、価格低下などにより収入が一定割合以上減少した場合に補填金が支払われる制度です。

加入には、青色申告が条件となっており、平成31年分の申請は、30年10月から11月となっています。

※詳しくは、地域の農業共済組合にお問い合わせください。



報道機関用提出資料	
担当課	農産園芸課 野菜・畑作物振興グループ
担当者	大和山 総括主幹
電話番号	直通 017-734-9485 内線 5076
報道監	農林水産部 石戸谷 農商工連携推進監 内線 4966